

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1 年	10	現代の社会
1 年	75	臨床実習
1 年	76	救急用自動車同乗実習
1 年	81	教員一覧、実務経験を有する教員一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位 認定者	平川 正隆		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	救急救命士という社会的に評価される人材に足りうる資質を向上させる。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と思想・宗教、歴史)					私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)				
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)					前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習しておくこと。(30分程度)				
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)					前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習しておくこと。(30分程度)				
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)					前回の講義内容(現代社会の特質)を復習しておくこと。(30分程度)				
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)					前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習しておくこと。(30分程度)				
6	日本の政治機構と政治参加 (特に地方自治と政党政治)					前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習しておくこと。(30分程度)				
7	現代の経済社会(特に財政と金融)					前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習しておくこと。(30分程度)				
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)					前回の講義内容(現代の経済社会)を復習しておくこと。(30分程度)				
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)					前回の講義内容(少子高齢化と国民の福祉)を復習しておくこと。(30分程度)				
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について)					前回の講義内容(消費者問題)を復習しておくこと。(30分程度)				
11	現代社会の特質・補足(生命科学)					前回の講義内容(労働問題)を復習しておくこと。(30分程度)				
12	日本の政治機構と政治参加・補足1(選挙制度と世論)					前回の講義内容(生命科学)を復習しておくこと。(30分程度)				
13	日本の政治機構と政治参加・補足2(裁判と司法権)					前回の講義内容(選挙制度と世論)を復習しておくこと。(30分程度)				
14	現代の経済社会・補足(日本の財政課題)					前回の講義内容(裁判と司法権)を復習しておくこと。(30分程度)				
15	日本の社会保障制度と環境問題					前回の講義内容(日本の財政課題)を復習しておくこと。(30分程度)				
教科書	『政治・経済・社会』大原出版									
参考文献										
備考	社会人・職業人を目指す学生であるとの視点から、整容や受講態度等評価対象といたします。小テスト・効果確認は、授業内でフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング EM-2-CLP-06				
		●	●	●	●					
科目名	臨床実習				単位 認定者	堀口 雅司		評価の方法	実習目標 達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	4 単位			
						授業時間数	160 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	各医療機関において臨床実習を行う。様々な救急処置を見学し、救急医療の現場を正しく理解し、医師やメディカルスタッフの指導の下に傷病者に接することで、病状、病態等の観察・判断の実際を学び、傷病者への対応についても体験する。臨床実習を通して、これまで修得した救急医療に関する知識の整理・定着と救急救命処置技術の修得を目指す。また、救急医療におけるチーム医療の実際を体験するとともにメディカルコントロールの重要性を認識し、医師の指示の下で救急医療を担う救急救命士としての自覚と責任感を養う。									
到達目標	臨床実習では医療知識の応用と、特定行為に関わる技術の習得を主体とする。さらに、医療現場の見学と介助を通して診療補助に対する理解を深める。これまで学んだ事や救急用自動車同乗実習で体験したこと、そして今回の臨床実習にて現場から医療機関までの一連の流れを学ぶ。									
学修者への期待等	毎日が交替で勤務している多忙な現場であるとともに、緊急性が高い現場で実習することを理解し、自分の所在を明らかにし、様々な状況に対応できるよう幅広い視野を持ち行動してほしい。どのような経験も自分の財産になるので目的意識と問題意識を持ち積極的な姿勢で臨むことを期待する。									
授業計画						準備学修				
I. 実習期間：令和7年11月10日から12月12日（うち20日間） II. 実習目的 1. 医療知識の応用と特定行為に関わる技術の習得を目的とする。 2. 医療現場の見学や医療行為の介助を通じて、診療補助に対する理解を深める。 3. 救急要請から病院収容後の検査、治療等の一連の過程、チーム医療について理解する。 4. インフォームドコンセントの重要性や患者や家族に対してのいたわりの心をもつことを学ぶ。 5. 病院内の医療従事者の業務やそれぞれの連携についての理解を深める。 III. 実習目標 1. 知識や技術の習得ならびに診療補助に対する理解を深める。 2. 患者を支えている様々な医療従事者の役割や内容、どのように連携をしているかを理解する。 3. 様々な状況にある傷病者や家族等の関係者に対する接遇について学ぶ。 IV. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後7時間 1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前・事後学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。 2. どのような内容でも与えられた役割は確実に遂行すること。 3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。 4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対しての理解を深める。 5. 実習終了後に報告会を開催し、学生間での学びを共有する。						臨床実習に臨むに際し、主に専門教育分野の各科目についての理解を深めるため、復習すること。（概ね10時間） 病院実習チェックリストに記載されている項目については再確認し、初見や見学のみとなる項目についても予習し、予備知識を得ておくこと。（概ね5時間）				
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版									
参考文献	適宜提示する。									
備考	詳細は後日配布する実習要綱参照 担当者 専任教員：堀口雅司、平川正隆、田中耕一、横山亜矢									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●	●	●	EM-2-CLP-06				
科目名	救急用自動車同乗実習				単位 認定者	堀口 雅司		評価の方法	実習目標 達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	各消防機関において救急用自動車同乗実習を行う。消防機関から救急車が出動する際等に、それに同乗し実習を行う。出動の待機から、出動、救急現場、搬送、医療機関への引き継ぎ等あらゆる場面における救急救命士の活動を見学し、救急医療の実際や救急体制、消防機関における救急救命士の役割を理解する。また、実習までに修得した知識や技術を、救急救命の現場において適切かつ安全に実用するための視点を身につける。また、救急救命士の、傷病者やその家族への対応から、救急救命士に必要な倫理観についても考察する。									
到達目標	救急用自動車同乗実習では、消防機関における消防職員、救急救命士としての役割を学ぶことを目的とする。また、現場で活躍する隊員の方々の手技を見学するとともに、知識の向上と現場対応能力を養う。									
学修者への期待等	規則や心得を順守し、実習生として主体的かつ責任ある行動を取ること。1年次の座学や、救急救命シミュレーションⅠ・Ⅱでの学修を基に、現場での見学や体験を通して現場活動や症例に対する理解を深め、将来に繋げていけることを期待する。									
授業計画							準備学修			
Ⅰ. 実習期間：令和7年5月12日から6月13日(うち5日間) Ⅱ. 実習目的 1. 消防機関における消防職員、救急救命士としての果たすべき役割を学ぶ。 2. 消防署内での業務、現場活動を通じ、消防業務ならびに救急業務等について理解する。 3. 現場での接遇や医療機関との連携等の実際を見学し、対応を習得する。 4. 救急隊員が行う傷病者の観察方法ならびに観察結果を見学し、知識及び技術の確認を行うとともに、学修の成果を挙げる。 Ⅲ. 実習目標 1. 消防機関での消防職員、救急救命士としての役割を知ることができる。 2. 消防署内での業務を理解し、消防職員を目指す学生として使命感及び向上心を獲得することができる。 3. 現場活動の見学を通して、どのように実践されているか理解できるとともに、今後の課題が分かる。 Ⅳ. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後7時間 1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。 2. 実習時間は1日概ね8時間とする。ただし、救急活動等が長時間にわたり、実習終了予定時間を超えた場合でも、救急活動終了までは実習を継続すること。 3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。 4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対しての理解を深める。 5. 実習終了後に報告会を開催し、学生間での学びを共有する。							救急用自動車同乗実習に臨むに際し、主に専門教育分野の各科目についての理解を深めるため、復習すること。具体的には、テキスト等に記載されている解剖・生理各疾患・外傷の病態等やシミュレーション等で学修した内容について再確認すること。(概ね10時間)			
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版									
参考文献	適宜提示する。									
備考	詳細は後日配布する実習要綱参照 担当者：専任教員 堀口雅司、平川正隆、田中耕一、横山亜矢									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	青山 美智子	m_aoyama@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	堀口 雅司	m_horiguchi@seiyogakuin.ac.jp
3	教授	平川 正隆	m_hirakawa@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	田中 耕一	ki_tanaka@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	横山 亜矢	a_yokoyama@seiyogakuin.ac.jp

救急救命学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
法律入門	2	鈴木 一樹	公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事
医学概論	1	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、医療人としてのあり方、倫理、法律について教授する。 救急隊長としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、救急救命士に関する法令・ストレスマネジメントなどを含めた心理学的な背景について教授する。
救急救命医療概論	2	堀口 雅司	救急救命士としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、必須事項を中心に授業を展開する。
救急救命処置概論	2	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、救急救命の現場で冷静に適切な判断を下し、理論的な観察・評価に裏付けられた処置を行い、傷病者の命を救うための、実践的な知識や観察力・推測力の重要性について教授する。
救急病態生理学	2	横山 亜矢	救急救命士としての実務経験を活用して、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。
救急症候学Ⅰ	2	平川 正隆	救急救命士としての実務経験を活用して、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。
救急症候学Ⅲ	2	橋本 美菜	救急救命士としての経験を活かして、基本的な症状や所見等について説明し、適切な処置判断につながるよう授業を進める。
疾病救急医学Ⅳ	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用して、各領域の特徴や疾患について詳しく説明する。
外傷学Ⅱ	2	横山 亜矢	救急救命士として実務経験を活用し、外傷部位ごとに解説するとともに系統的な理解ができるようにする。
救急救命シミュレーションⅠ	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
救急救命シミュレーションⅡ	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
法医学	1	舟山 真人	担当教員はこれまで数千件の法医学解剖を担当し、全ての鑑定書を作成してきた。
感染症と災害医療	1	平川 正隆	阪神淡路大震災・東日本大震災・コロナウイルス感染症等を救急救命士及び救急業務管理者として実経験した内容や、2019ラグビーワールドカップ日本大会におけるテロ災害対応計画なども踏まえて自然災害以外のテロ災害についても知識を広げ、災害対応・災害医療・感染症などについて学んでいただきます。
環境障害・急性中毒学	1	平川 正隆	救急救命士として実務経験を活用し、正確な観察に基づく緊急度重症度・処置判断判断、が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。
救急救命シミュレーションⅢ	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
救急救命シミュレーションⅣ	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
	40	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	